緊急速報　外国人介護士候補者の【国家試験対策情報】　月報 31 号

3 月 28 日厚労省発表
「第 26 回介護福祉士国家試験結果」を考察

【 再受験者の合格率は、わずか 12.9% 】

● 今回の全体合格率は、第 26 回では 36.3%であり、第 25 回結果の 39.8%を 3.5%下回る結果となった。その内訳を分析すると、初受験者が第 25 回より 26 回の方が 15.3%上回る 54.1%に達している。
しかしながら、再受験者ではその比率が逆転し、26 回では 42.3%も下回る 12.9%に留まったことが、今回の特徴だ。

● さらに、これを考察すると、再受験者が初受験者より大きく下回っている原因は、在日 4 年間もの日本生活をしながらも言語能力がほとんど向上しておらず、また、専門知識でさえ、再延長の期間を経ても身についていないことが証明されたことになる。
それに対して、初受験者の合格率が高まった理由は、在日 3 年間での専門知識中心とした受験対策が、功を称したと言える。
しかし、合格後の業務遂行能力とは全く別問題であるから、今後の課題が残る。

<表 1>	第 25 回	第 26 回
全体合格率	39.8%	36.3%
・初受験者合格率	38.8%	54.1%
・再受験者合格率	55.2%	12.9%

※ 注目点は、25 回目では再受験者が初受験者より 16.4%上回っていたが、26 回目で再受験者が初受験者より 41.2%も下回って逆転していることだ。

【今後の業務遂行能力の問題が浮上 】

● しかし、この結果はマークシート式の受験結果であり、専門知識の選択肢が正しかっただけで合格した場合は、今後、業務を遂行するにあたっての「日本語を使った業務遂行能力」の大きな問題を抱えている。　そして、現場では今回の合格者が業務を行う上で、言語能力の再教育をせざるを得ないこととなる。　この問題点が現場での合格者に対する問題として大きく浮上することは明らかだ。

【 初受験者・再受験者合格率は、ともにインドネシア人が高い 】

<表 2>　インドネシア

	初受験	(%)	再受験	(%)
第 25 回	166 名中 76 名	45.7	18 名中 10 名	55.5
第 26 回	70 名中 40 名	57.1	37 名中 6 名	16.2

<表 3>　フィリピン

	初受験	(%)	再受験	(%)
第 25 回	138 名中 42 名	30.4	0 名	0
第 26 回	52 名中 26 名	50	56 名中 6 名	10.7

● なお、国別の表 2 と表 3 を比較した場合、初受験並びに、再受験ともにインドネシアの受験者が、フィリピンの受験者より合格率が高いことが判明した。　特に、初受験者のインドネシア人の場合は、第 25 回と 26 回を比較すると 11.4%の向上があることが特筆すべき点だ。　また、再受験者では 26 回をインドネシア人とフィリピン人を比較した場合、5.5%もインドネシア人の合格者が上回っていることも特徴だ。

● 全体の合格率が第 25 回 39.8%から 26 回 36.3%に下回ったことは、受験者全体の合格率が悪くなっていることを表している。　そして、その合格率の足を引っ張っている形となっているのが、フィリピン人受験者と言える。

【 合格率低迷の原因は何か 】

- 合格率低迷の理由の一つとしては、冒頭に述べた通り、再受験者の合格率（表１参照）が42.3%も急落した。その結果が、全体の合格率を36.3%に留めたことの大きな要因と言える。　さらに、表３で明白なようにフィリピン人の初受験者並びに、再受験者の合格率が低いことも、全体合格率が低くなった要因でもある。　今後、この問題に対処するためには、フィリピン人受験者の対応をどのようにするかが、大きな要素だということが判明した。
- 統括的に今回の試験結果を考察するならば、初受験者の合格率より、再受験者の合格率が41.2%もの差が生じていることが最大の原因だ。　常識的に考えるならば、初受験者より再受験者のほうが、一度、国家試験経験がありながら、そして、４年間の在日経験もあって、合格できる諸環境があるにも関わらず、合格できないという実態が明らかとなった。この背景には、再受験者の国家試験に対する精神的な意識の衰退を、顕著に表している。
- よって、延長制度自体がこの様な結果であれば、意味を成さないと言わざるを得ない。　さらに、受験者としてみれば、国家試験合格を目指す自覚が、再受験者には意識が希薄となっていると言わざるを得ないので、今後の再受験者対応に関係者は厳しく対応すべきだ。

＜表４＞　学習時間数積算根拠
③　施設内教育　（２年半間） 4H×6日間×4週×12ヶ月間≒2,880H
②　入職直後集中教育（6ヶ月間） ≒　700H
①　母国日本語学習（１年間） 7H×5日間×4週×12ヶ月間≒1,680H
①＋②＋③　合計時間数　5,260H ※　①と③の積算根拠は、最低学習時間数を基に算出したもの。

【5,260時間以上の学習の結果が反映されない！！】

- 外国人が日本の国家試験を受験するにあたって、表４の通り、母国での日本語学習期間約１年間と、入国直後の集中教育期間６ヶ月間、さらに、受験日までの約３年間があるにも関わらず、表１のように、毎回**40%以下の合格率**でしかないことは、**「日本側に外国人対応策が確立していないか」**と**「教育の質の悪さ」**が試験結果で明白となった。さらに、表４で表したように受験者は、国家試験日までに日本語学習並びに、試験対策教育を最低、5,000時間以上も学んでいる。
- それにも関わらず、日常会話並びに業務会話が不十分であると同時に、業務遂行能力、特に「会議でのメモとり」や「業務日誌の記録とり」などができずに、「日本人職員との能力の違い」が表面化している。　このことは、施設内労働者の待遇面に対する差別が生じて、すでに問題視されていることも、注目しなければならない。
- これらの問題を解決するためには、**母国並びに、入国直後の集中教育の質を再吟味する**必要があると同時に、入職直後の外国人対応基準を設けて、「我侭な状態」を辞めさせ、施設運営に支障の無い対応を、毅然ととることが、最も肝要なことだ。
- これらの問題を解消するにあたって、以下の課題を早急に解消することが重要だ。

＜課題1＞　初受験者の合格者の実務遂行能力不足を、どう対応するか。
＜課題2＞　延長者の試験日までの対応を、どのようにすべきか。
＜課題3＞　フィリピン人受験者に対する対応を、どのようにすべきか。
＜課題4＞　なぜ、日本人と同様の労務規定が適応できないのか。
＜課題5＞　なぜ、施設の方針を徹底させる指導の確立ができないのか。

国家試験合格、喜びの声！！

「到達度試験に参加して、全員合格！！」

- 夏頃から【到達度試験の優待制度】を利用してレベルＢ試験まで受けてみた。　「100万人の日本語」教材の効果があり、使う前に比べると読解力もおかげで身につけられた。　今になって職員の間では、「８月から使い始めたが、もっと早いうちに使って学んでおけば、より効果が上がった」という意見が多く出た。
- 職員との日常会話においては、方言をまじえたりしながらでも、問題なく話しができていたが、国家試験問題など文章で書かれた日本語は、会話とは違い、難しく感じられる面があり、戸惑っていた。　文章は、きちっと整えられた日本語なので難しいのだと思う。　業務においては、全く問題なくできる。　事業団のテストでは、毎回上位を保てていた。
- 【到達度試験】を受けたおかげで、今回めでたく二名とも合格できたことに、とても感謝している。　（徳島県・ケアプラザみま）

「東京都では当施設だけ全員合格！！」

- 入職した当初は、集中教育の効果は全く無く、期待していたほどの日本語力が身についていなかったので、とても残念に思った。そこで、【到達度試験】に一昨年の６月から参加して、日本語力と受験能力を養ってきた。　事業団のテキストは使わずに、到達度試験の結果と考察指導を忠実に守りながら、「100万人の日本語」の教材を使って、音読練習を行ってきた。　その結果、読み・書きの力はよく身につき、二年目には介護の参考書も読破できるようになった。
- 職員は毎日、業務で忙しく日本語学習も受験勉強も指導できなかった状態だった。そのために、受験者はほとんど、自分達で自学していた。　ほとんど自分達の力だけで学習していたのに、幸い、二名とも合格できて、東京都内では当施設だけが合格できたことは、誇らしく思う。
- 今から考えれば、やはり【到達度試験】に参加して、言語能力を養った効果がはっきりと表れていると実感している。業務は問題なく日本人職員と同じようにこなすことができている。　介護記録や報告書をもっと詳細に書けるようにレベルを高めることが、これからの課題だ。

（東京都・Ｘ施設）

不合格（到達度試験不参加者）施設の声 ～　今後の学習方法に課題を残す～

- 延長で残っていた受験者は、事業団教材を使い熱心に学んでいたが不合格となった。　前年同様、今回の試験も問題を読解できずに解けなかった。　（東京都）
- 受験対策は、外部の介護専門学校の講師を雇って、個人レッスンで事業団の教材を中心に学習させていた。　そこまでしながら、不合格となった。　そして、本人は、さっさと３月中にインドネシアに帰国してしまい、すでにいない。今後の受け入れは、もうしない。　（新潟県）
- 試験前までは、「合格したら日本で長く働きたい。　もし、合格できなくても延長で残る」と言っていた。　しかし、不合格が分かると、前言を翻して、二名とも帰国してしまった。「言っていることと、やることがあまりにも違うこと」に唖然とした。　（岐阜県）

なぜ何度受けても合格できないのか？！

- 今年もやはり、ダメだった。　今まで二年連続して不合格者を出している。　毎年試験後に、施設内で反省をするが、結果はいつもよくならない。その原因を考えると、毎年受け入れる受験者の入職時の日本語力は、ほとんどできない状態だ。そのため、十分な会話力も無いので意思疎通ができないため、大きな問題となる。
- 当施設では、事業団教材を使い、事業団の指導に沿って熱心に学習指導したつもりだ。　前年は介護知識の指導を専門家に任せたが、効果は無い。事業団の指導通りに行っているのに、二年間も合格できないのが不思議だ。　（神奈川県）

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。　教育効果は、平成 24 度国家試験で受験者数 95 名中 36 名が合格し、その 36 名中 19 名（52.7%）がこの【到達度試験】を受けた受験者でした。　25 年度では、128 名の国家試験合格者のうち、【到達度試験】参加者は 76 名で、合格者は68 名（89.4%）でした。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。　さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで実践力のある要員として育成することを目的としています。　定期的試験結果を数値化し、職員に指導の仕方を考察票でお送りしておりますので、安心してご指導頂けます。　是非、ご参加下さい。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類
3段階	75 % 専門学校卒の言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・瞬時反応 ・文脈読解力 ・要約力など
2段階	90 % 専門学校 2 年の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習をさせる。	★ 4 技能 ・瞬時反応 ・漢字熟語力 ・文脈読解など
1段階	90 % 専門学校 1 年の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」（語彙力・文意力)に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・瞬時反応力 ・文意読解など
F段階	85 % 高校 3 年の言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で学習させる。	★ 4 技能 ・瞬時反応力 ・文意読解など
E段階	80 % 高校 1 年の言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・文読解力 ・図読解力など
D段階	75 % 中学校 2 年の言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・対応力 ・要約力など
C段階	70 % 小学校 6 年の言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・瞬時反応力 ・文脈力　など
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な知識とその使い分け」ができる能力を中心として学習させる。 ・構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 11 技能 ・瞬時反応力 ・読解力など
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の言語能力		★ 13 技能 ・瞬時反応力 ・文字認知力 ・読解力など
初回	75 %	受験者の現状の日本語能力を観る。	

【国家試験受験能力到達度試験】参加のおすすめ

1、 受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。

2、 言語能力の到達度チェックは、２ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。　今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。

3、 受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率を高めることとなります。　この理由から、本試験のＥレベル～国試３レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。

【到達度試験段階】

３段階
２段階
１段階
Ｆ段階
Ｅ段階
Ｄ段階
Ｃ段階
Ｂ段階
Ａ段階
初回

＜合格能力育成＞

● 三段階終了時には、「日本人の専門学校卒の言語能力」を有し、国家試験問題に十二分に対応できる能力と同時に、専門知識を着実に身につければ、国家試験合格能力が十分に身につけられる。

＜受験能力育成＞

● Ｄ段階を終了すれば、日本語の基礎力と生活上に必要な言語能力が身につき、「日本人の中学校２年生と同様の言語能力」が養われる。　また、会話力だけでなく、読解力と構文力も同様になる。

※　学習段階内容と特徴は前頁の【国家試験受験能力到達度試験の特徴】を参照

＜受験能力＋合格能力育費用＞
290,033円
@19,250円×10回＋教材(16,533円)

※　確実に言語能力を定着させるため、再試験を行いますが、再試験料金は受験料に含みます。

【国家試験受験能力到達度】試験と【教材】申し込み書　　＜送付先：ＦＡＸ　086-451-4244＞

施設名：　　ご担当者名：
所在地：〒
電話：　　ＦＡＸ：　　ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：

＜受験人数＞　　名
＜受験者の国籍＞　インドネシア（　　名）　フィリピン（　　名）
※　下記の料金は受験者１名あたりの金額です。　該当するレベルを○で囲んで下さい。
＜単発受験＞
　初回・レベルＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ・　国試１・２・３　　@22,000円×　　合計　　円
＜継続受験＞
　初回から全10回（教材費・考察指導料込み）　　209,033円　×　　名　合計金額　　円

ことばの研究社　〒701-0102　岡山県倉敷市庄新町 9-4-12
電話：086-451-8155　ＦＡＸ：086-451-4244　メール：kotoba_ken@yahoo.co.jp